

enculturation

子どもはどのように文化を習得していくのだろうか？

文化人類学者 C. K. M.クラックホーン: culturalization

M. J.ハースコビッツ : enculturationという概念を提案

個人がその所属している社会以外の文化を身につけること、ならびに、社会が他の社会の文化要素を受容すること⇒文化変容 acculturation

- ◆親に何ができるのか？
- ◆保育所・幼稚園に何ができるのか？
- ◆保健センター等の健診の場で何ができるのか？
- ◆地域活動の中で何ができるのか？

「子どもの100の言葉」イタリア・レッジョ・エミリア市



エミリア＝ローマニア州（ミラノから特急で約1時間）。人口約16.5万人。肥沃な土地（畜産、農産）

- ・ 1991年12月Newsweek誌にて、世界で最も優れた（前衛的な）幼児教育の場として紹介され、世界的に脚光を浴びた。
 - ・ 子どもに聴く。子ども・保育者・保護者が響きあい育ちあう「**公共性の形成**」
 - 誰もが参与する＝公共
 - 誰もが取り組みに参加する
 - 一人ひとりの「声」を聴き合う
／分かち合う＝かかわりあう
- 食生活（食文化）そのものがアート！**

食を通した子どもの育ちへの理解を深める

- ◆ 乳汁から離乳食、手づかみ食べへ
 - ◆ 他者、モノ(食物・食具)との関わりを食べる
- …三項関係の形成



3カ月

文化化
enculturati
on



10か月



12か月

子ども
他者
(親・保育者・友だち)
モノ
(食物・食具)

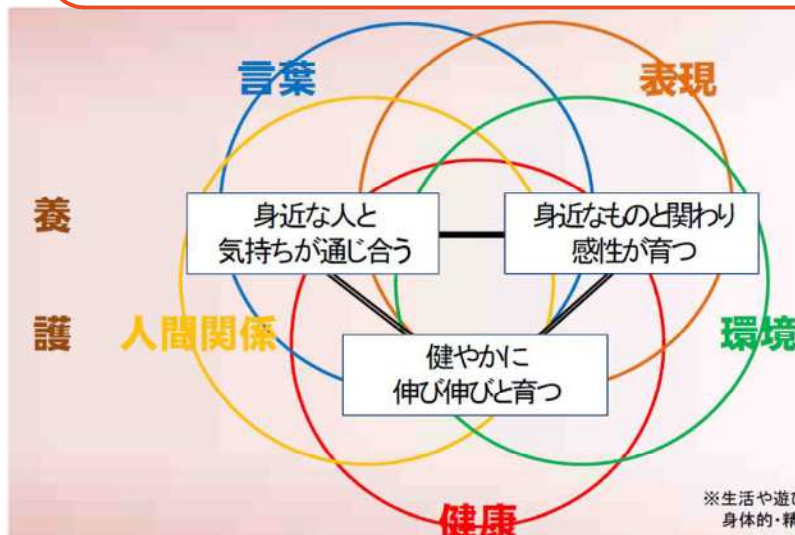
授乳場面でのコミュニケーション Kaye, K. (1982),
共食 外山 (2008), 川田学 (2011), 保育者のかかわり 淀川 (2011・2013)

0・1・2歳の食育

coziness

食を通して、人としての心地よさを味わう

- 授乳期・離乳期
安心と安らぎの中で食べる意欲の基礎づくり
- 幼児期
食べる意欲を大切に、食の体験を広げよう



心地よい
一緒に食べたい
もてなしたい

※生活や遊びを通じて、子どもたちの身体的・精神的・社会的発達の基盤を培う

子どもから大人へ発信 「食事の挨拶」に注目

食べることの意味を理解し、
一人一人が自立的に**食生活**
を営む力を育てることや、それ
を実現しやすい**食環境**づく
り、それらを支援・推進する
ネットワークづくり

日本栄養士会

子どもの健康づくりと食育推進啓発委員会 1999

あなたの家族はどっち? どちらを選びますか?

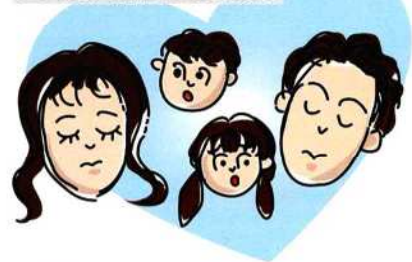
乳幼児食事基礎調査結果からの提案

食事の「いただきます」「ごちそうさま」



いつもほとんど言うYさん家族

いつもあまり言わないNさん家族



作成：社団法人 日本栄養士会
子どもの健康づくりと食育の推進・啓発事業委員会

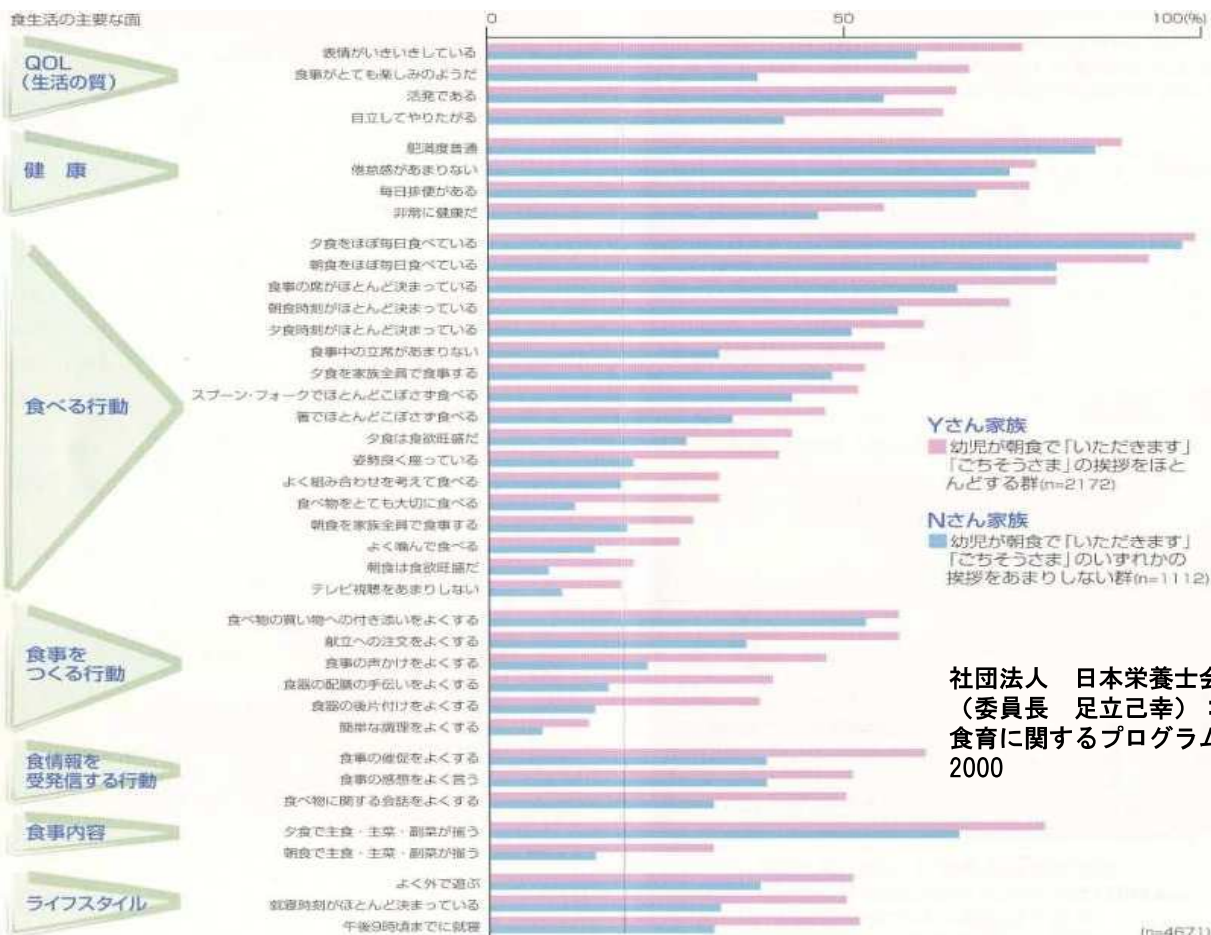


図3 幼児の朝食での挨拶行動と、QOL・健康・食行動・ライフスタイルとの関係 (n=4671)

社団法人 日本栄養士会
(委員長 足立己幸)：
食育に関するプログラム、
2000

たった二本の棒： 箸使いから広がる「食の発見」



箸の使い始め
(2歳6か月Y君)



箸使いの試行錯誤
(4歳0か月Y君)



箸使いの試行錯誤
(4歳10か月Y君)

人間の「食」の特徴を引き出す 素朴な“箸”の魅力

- ✓ 人間は、目、鼻、手、口、消化器官を使い、食物の色、匂い、温度、硬さを感じ、口に運ぶ量や速さ、噛む力を調節しながら、からだ全身で食べる。
- ✓ 手、スプーン、箸等の道具を使って食べる
⇒子どもの発達から再確認できる。
- ✓ 雑食、すなわち、いろいろな食物を火を使って料理して食べる。
- ✓ 食卓で人とのつながりをひきだす道具

二本の棒(箸)⇔子どものからだ、こころ、環境を探索する道具

子ども一人ひとりの食文化の形成と創造

一緒に**和食育**の生活を楽しまたい つなげていこう！

子どもながらに役立ちたい
助かった！
ありがとう！を添えて



子どもと作る
かんたんおせち

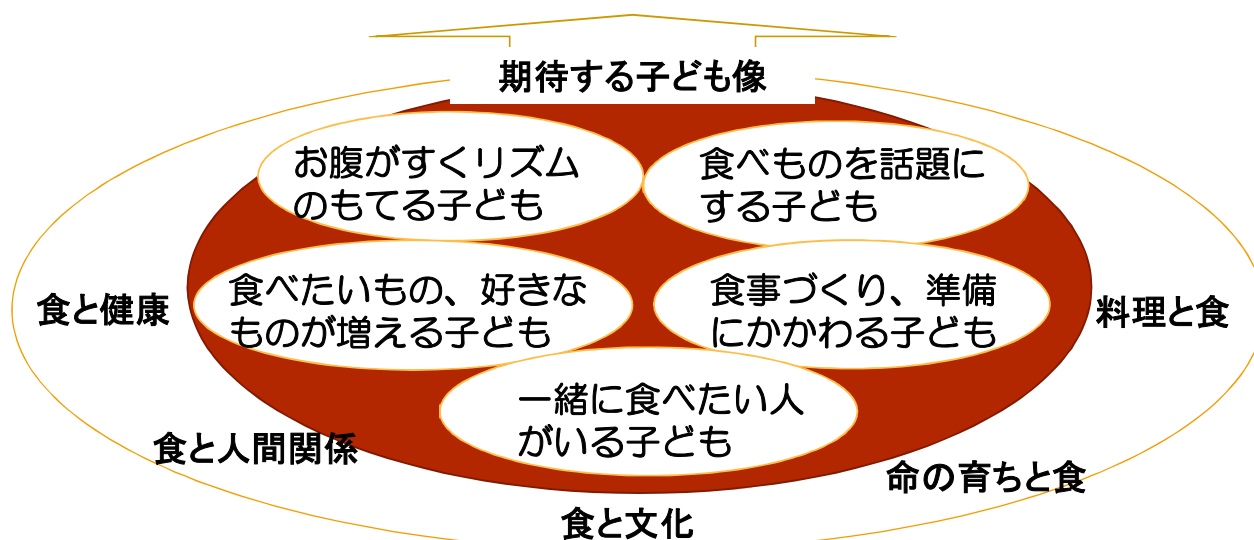


子どもの頃の家庭での食事が楽しかった人は、
大人になってからの食事でも楽しく、満足している (Ainuki et al, 2013)

食の場は**教育的要素**がいっぱい！

〈目標〉

現在を最もよく生き、かつ、生涯にわたって健康で質の高い生活を送る基本としての「食を営む力」の育成を目指し、その基礎を培うこと



保育所における食育に関する指針

酒井他「保育所における食育のあり方に関する研究」, 厚生労働省 2004.3